



についての見解 その2

文：富士宮教材開発（井出進学塾） 代表 井出真歩

この度は、「びっくりするほどよくわかる」シリーズ『速さ』をご覧いただきありがとうございます。ごさいます。

前回に引き続き、「み・は・じ」に関する当塾（弊社）の見解を示したいと思います。

使わない方がいいことはまちがいありません。

当塾でも「みはじ」は使いませんし、それでも生徒さんたちにはしっかりと「速さ」について理解させています。

ためしにネットで「みはじ」と検索してみてください。

「みはじは使うな」とか、ひどいものでは「みはじを使うとバカになる」とまで言い切っているような記事が、けっこうあるはずですよ。

しかし、このような意見もまたどうかと思います。

親御さんとしては、「なんでもいいからいい点をとって欲しい」というのは当然の願いであります。

そういう当然の願いに耳を傾けないのは、商売としてというよりも人間としてどうかと思います。

実際こういうことを言う方々が、「みはじ」を使わないでもできるようにわかりやすい説明をユーチューブなどでしているわけではありません。多くは、「その説明では伝わらないな」というものばかりです。（事実、ユーチューブ解説などでは、平均して「みはじ」を使って解説しているものの方が、はるかに伝わりやすい説明になっています。）

理想論だけ並べて実を出さなければ、そんなに意味のないことはありません。

当塾の中だけでは「みはじ」を使わない方針でも十分に成果を出せますが、外部に向かって「みはじを使うな」と言うのは非常に無責任なことだと考えていました。

「使うな」と言う限り、使わないでその代わりどうすればよいかを示す責任がありますし、それにはとても覚悟がいることです。

覚悟を決めました。

「みはじ」を使わないで、どのように「速さ」について理解させればよいか？
この件についてどんどん発信していきます。

私どもとしては、非常に覚悟がいます。

ものすごく手間がかかることですし、塾の指導法などコアな部分を外部に出すことになりま
す。

しかし、当塾も設立してから10年が経ち、社会的貢献・社会的責任を積極的に果たしてい
く立場にあります。

「速さ」なんて、本当にしっかり勉強すれば何でもないところです。
それをお伝えしていきます。

☆補足

弊社の教材は「問題・解答」ではなく、「解説（指導法）」がメインに設計されています。使い方は自由
ですが、いつでも親御さんがお子さんの勉強をみてあげられるようにつくってありますので、ぜひそう
してあげてください。

☆もう1つ確認しておきたい大切なことがあります。

今回の解説冊子「びっくりするほどよくわかる『速さ』」で、1つ大切なことを説明しそびれていたの
でここで補足させていただきます。

それは…

「わり算には2種類の意味がある」ということです。

例えば「 $15 \div 3$ 」について考えましょう。

これは 1 「15 を 3 等分するといくつか」 と
2 「15 の中に 3 はいくつ入っているか」 と 2 つの意味です。

案外、誰でもどちらかにかたよっているものです。

多いのは 1 の意味だけにしばられていて、2 の意味は忘れているというパターンです。

これまでにみた「速さ」の問題でふり返ってみましょう。

Q. 「6 分で 300 m 歩いたときの分速」を求める問題。

これは 1 分あたりの道のりを求めたいので、300 m を 6 等分するので
 $300 \div 6$ ……これは 1 のわり算です。

Q. 「時速 40 km で 240 km 走るのにかかる時間」を求める問題。

時速 40 km というのは、40 km 進むのに 1 時間かかるという意味です。

よって 240 の中に 40 がいくつあるかを考えればよいので、

$240 \div 40$ ……これは 2 のわり算です。

(文字資料だけのこの紙面では説明しきれませんが、この考え方で確かにわかりやすく解釈できます。)

小学校 3 年生でわり算は習い始めます。どちらも等しく習いますが、むしろあまりのあるわり算では 2 のわり算の意味でアプローチすることが多いです。

ところがしばらくすると、多くのお子さんが 1 のわり算の意味だけになり、2 のわり算の意味を忘れてしまいます。(当塾に通い始める生徒さんも、2 のわり算の意味は知らなかったとよく言います。正確には忘れていただけです。)

次のようなデータもあります。



「H28年9月29日 毎日新聞」より引用

先日行われた全国学力テスト（小学校6年生）で、正答率が7.0%だった問題です。7.0%というのは、ものすごく低い数字ととらえていいでしょう。100人中7人しか正解できなかったということです。問題の内容は、要約すると「 $360 \div 120$ の意味を説明せよ」というものでした。

②のわり算の意味を忘れている、あるいは理解していないお子さんが多いということを証明するデータです。

原因はいろいろとありますが、1つ多くの有識者が見逃している点がありますので、ここで指摘します。

それは「ゆとり教育」の反動です。

具体的に言いますと、「ゆとり教育」が終わり、文字(x)を使った計算が復活しました。

これ自体はまったく良いことなのですが私が受けています印象を言いますと、あまりに多くの教育の場でxに頼りすぎる指導がなされるようになったと感じます。

例えば「速さ」の問題でいいますと

「時速40kmで6時間進むと何km進みますか」という問いは、時速とは1時間あたりに進む道のりなので、 40×6 という式でいいだろうというのは、わりととらえやすい考え方です。

そこで先ほどのような問題でも $40 \times x = 240$ という式から、
かけ算の反対はわり算なので、 $x = 240 \div 40$ を導くような指導が増えてきました。
（「速さ」はあくまで一例です）

これ自体はまったく悪いことではありませんし、むしろ良いことです。

しかし、これまでにみてきたように

①のわり算の意味で「道のり÷時間」で「速さ」、

②のわり算の意味で「道のり÷速さ」で「時間」と、簡単に導くことができます。

これを使わないのは、もったいないでしょう。お子さまの思考力の幅をぐんと広げます。

これらの2つのわり算の考え方を小学生のうちに使いこなせるようになれば、次の次、すなわち高校生になってからも物理や化学などでも高いパフォーマンスをあげられることは疑問のないことでしょう。

弊社では「提供するの是指導法」と宣言しています。

これは、親御様がお子さまの勉強をみてあげられるときに、将来的により可能性が広がる方向に導いてもらいたいという願いからです。また、お子さんが自分で勉強されるとしても、より良い方向に導いてあげたいと考えているからです。

ご意見・ご感想・ご相談等、なんでもお待ちしております。

富士宮教材開発
井出真歩